

RYUKOKU UNIVERSITY VOLUNTEER NPO CENTER



RYUKOKU
UNIVERSITY



2024年度 活動報告書





CONTENTS

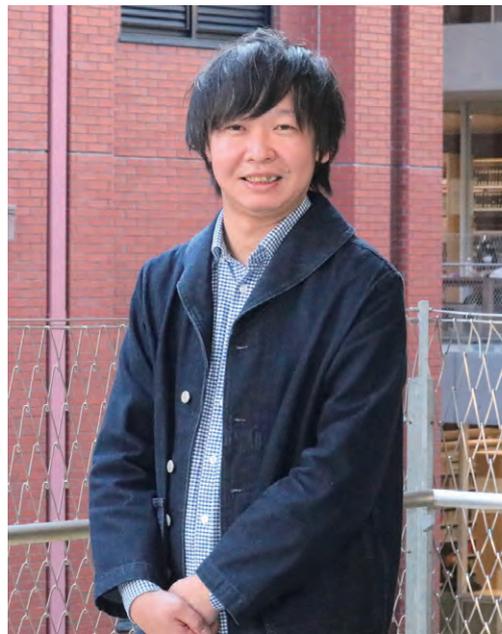
❶ センター利用実績・情報発信	02
❷ ボランティアリーダー育成事業	04
❸ 体験学習プログラム	07
❹ 学生スタッフのボランティア企画	09
❺ 学生スタッフの班活動	13
❻ 学生スタッフの育成・支援等	16
❼ その他、協力企画等	18
❽ 災害復興支援ボランティア関連事業	21

災害復興支援ボランティア委員会規程	27
ボランティア・NPO活動センター規程	28
ボランティア・NPO活動センター名簿	28
新聞紙掲載記事	29

ごあいさつ

2024年度の ボランティア・NPO 活動センターを ふりかえって

センター長 石原 凌河



龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（以下、センター）は、2001年度の創設以来、思いやり、責任感、主体的に行動する力のある人間を育てるとともに、各種諸団体との連携・交流を深め、学内外における様々なボランティア活動の振興を図って参りました。

紙面の関係上、2024年度の取り組みの詳細を網羅的に記載することはできないため、それぞれの当該ページをご参照いただけたらと思いますが、ここではセンターにおける2024年度の実績をごく簡単に紹介させていただきます。

当センターではボランティア活動を希望する学生への情報提供等を行うとともに、地域団体のボランティア募集の相談に応じるなど、この兩者をつなぐボランティアコーディネートの役割を担っています。2024年度も学生および外部団体への相談やコーディネートに関する業務を滞りなく実施しました。

また、本学学生を対象としたボランティアに関する講座として、「ボランティア入門講座」・「ボランティア体験Ryuボラ！」・「ボランティアリーダー養成講座」・「社会問題理解のための講座&ワークショップ」を実施し、本学学生のボランティア活動への参加促進に努めて参りました。長期休暇期間中には、国内外の地域を訪問する「体験学習プログラム」を実施しました。2024年度の国内体験学習プログラムでは、東日本大震災被災地を訪問する「災害を学ぶスタディツアー」を実施しました。海外体験学習プログラムでは、外部NGOが呼び掛けるスタディツアーを組み込んだ形で「インドネシアの教育と環境を実感するスタディツアー」と「フィリピンスタディツアー」を実施しました。

令和6年能登半島地震と奥能登豪雨災害の発災を受けて、学生による被災地でのボランティア活動を計4回実施しました。2024年度から龍谷大学災害復興支援ボランティア活動に伴う交通費等助成制度を新たに設け、学生の災害ボランティア活動参

加に係る金銭的支援を行いました。内閣府の特定非営利活動法人等被災者支援活動費補助金を活用し、教職員を参加対象とした災害支援ボランティア活動も年度末に実施しました。そして、今年度の能登での復興支援活動を総括し、今後も継続的な支援を行う必要性を共有するために、復興支援フォーラム「学生だからできること～能登半島地震の支援と防災・減災～」を開催しました。

この他にも、教員・職員とともにセンターを運営する学生スタッフを育成するために、オリエンテーション研修・夏合宿・春研修を実施しました。学生スタッフが主体的にセンターの環境を整えることや、コーディネートのスキルアップなどを目的とした班活動の支援も行ってきました。2025年度からの社会学部深草キャンパス移転等を見据え、2025年度以降の学生スタッフの活動方針の見直しを行いました。「深草ふれあいプラザ2024」・「大津祭」など学内外のボランティア企画への協力も積極的に行なって参りました。

センターでは「ボランティア・NPO活動センター将来計画」を今年度新たに策定し、「ボランティア・NPO活動を通じた市民社会の担い手となる人材育成」「地域や国際社会に貢献する」「教育研究に寄与する」目的を果たすため、あらためて使命を明確化し、「地域等連携機能」「災害支援機能」「エンパワメント機能」という3つの機能を柱に掲げて更なる強化をはかっていくことを打ち出しました。将来計画で掲げている機能を強化するとともに、龍谷大学基本構想400の将来ビジョンとして掲げられている「まごころ～Magokoro～ある市民を育む」をリードできる組織となるように更なる魅力ある事業を展開して参ります。そして、龍谷大学にボランティアをお願いしてよかったと多くの方々から信頼されるようなセンターであり続けたいと考えています。

皆様からの変わらぬご支援のほど何卒よろしく申し上げます。

センターでは、ボランティア活動を希望する学生へ情報提供などを行い、地域団体等からのボランティア募集の相談に応じるなど、この兩者をつなぐ役割を担っています。センターには日々多くのボランティア活動の情報が寄せられ、学生スタッフとともに情報整理を行っています。

月別相談者数(複数回答あり)

月	ボランティア相談		学生スタッフ		センター企画		情報収集		その他		計	
	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田
4月	44	25	75	62	5	1	26	6	5	1	155	95
5月	13	23	0	0	0	0	5	6	0	3	18	32
6月	9	12	1	0	0	1	4	4	0	0	14	17
7月	17	18	0	0	1	0	1	6	0	0	19	24
8月	12	1	0	0	0	0	3	0	0	0	15	1
9月	8	8	0	0	0	0	4	0	0	0	12	8
10月	13	15	2	0	0	1	9	2	0	1	24	19
11月	13	11	0	0	0	1	1	3	1	0	15	15
12月	5	5	2	0	0	0	1	4	0	0	8	9
1月	11	6	0	0	0	0	1	3	0	0	12	9
2月	6	2	0	0	0	0	1	0	0	0	7	2
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	151	126	80	62	6	4	56	34	6	5	299	231
両キャンパス年間計												530

活動希望分野別相談者数(複数回答あり)

希望分野	相談者数		計
	深草	瀬田	
子ども・青少年	85	88	173
高齢者	23	18	41
障がい児・者	27	21	48
医療	10	7	17
国際協力・交流・在住外国人支援	49	32	81
人権	19	7	26
貧困	27	11	38
環境	67	30	97
災害	61	31	92
文化・芸術	40	27	67
スポーツ	23	29	52
動物愛護	30	21	51
平和	25	11	36
まちづくり	64	36	100
農業	24	20	44
中間支援	6	3	9
その他	5	3	8
合計	585	395	980

学部別相談者数

所 属	相談者数		計
	深草	瀬田	
文学部	52	1	53
経済学部	32	0	32
経営学部	23	0	23
法学部	30	0	30
理工学部	0	0	0
社会学部	4	125	129
国際文化学部	0	0	0
政策学部	35	0	35
国際学部	30	0	30
農学部	1	51	52
先端理工学部	0	24	24
心理学部	27	0	27
短期大学部	3	0	3
大学院	0	0	0
他大学	0	0	0
教員	0	0	0
職員	0	0	0
無記入	1	3	4
合計	238	204	442

センター来室者数

月	深草	瀬田	計
4月	413	258	671
5月	364	267	631
6月	436	287	723
7月	377	292	669
8月	28	23	51
9月	213	112	325
10月	594	254	848
11月	341	205	546
12月	325	149	474
1月	235	85	320
2月	98	34	132
3月	95	19	114
合計	3,519	1,985	5,504

※各種相談での来室(学生、教職員、地域の方等)、学生スタッフの活動での来室を含む

センター紹介(講義やゼミの中で、センターの紹介を行っています)

	日	対象学部	担当教員名	科目名等
1	4月9日(火)	社会学部	高松 智画	社会福祉実践論
2	4月9日(火)	農学部	嶋田 大作	くらしと経済
3	4月11日(木)	社会学部	高松 智画	基礎ゼミナール
4	4月11日(木)	社会学部	筒井 のり子	基礎ゼミナール
5	4月15日(月)	農学部	高松 智画	社会福祉論
6	4月17日(水)	経済学部	高谷 真城	入門演習10組
7	4月17日(水)	経済学部	松島 泰勝	入門演習
8	4月19日(金)	農学部	嶋田 大作	入門ゼミ(合同)
9	4月19日(金)	社会学部	柴田 和子	NPO・NGO論
10	4月24日(水)	政策学部	石原 凌河	基礎演習Ⅰ
11	5月8日(水)	経済学部	伊達 浩憲	入門演習
12	5月15日(水)	経営学部	真鍋 邦大	フレッシューズゼミ
13	6月20日(木)	短期大学部	遅 力裕	地域福祉と包括的支援体制
14	6月21日(金)	農学部	山口 道利	入門ゼミ(合同)
15	7月1日(月)	政策学部	深尾 昌峰	現代社会の市民性を学ぶ
16	10月2日(水)	国際学部	古川 秀夫	NGO/NPO論
17	10月8日(火)	社会学部	石井 祐理子	ボランティア論

SNS投稿数

Facebook

4月	4
5月	4
6月	2
7月	2
8月	2
9月	6
10月	6
11月	7
12月	3
1月	4
2月	1
3月	3
計	42

X(旧Twitter)

4月	42
5月	21
6月	21
7月	18
8月	5
9月	21
10月	30
11月	24
12月	23
1月	7
2月	5
3月	18
計	235

団体登録数

分野	京都府	滋賀県	その他 関西	関西 以外	計
子ども・青少年	30	25	15	3	73
高齢者	5	2	2	0	9
障がい児・者	8	16	2	0	26
医療	3	2	1	0	6
国際協力・交流・在住外国人支援	2	3	1	5	11
人権	2	0	0	0	2
貧困	0	1	0	1	2
環境	6	4	0	2	12
災害	0	1	0	0	1
文化・芸術	5	3	1	0	9
スポーツ	2	4	4	0	10
動物愛護	0	0	0	0	0
平和	0	0	0	0	0
まちづくり	10	6	1	0	17
農業	0	0	0	0	0
中間支援	1	5	2	1	9
その他	3	5	0	1	9
合計	77	77	29	13	196

外部団体相談受付件数

相談内容	深草	瀬田	計
広報依頼(ボランティア募集)	127	134	261
広報依頼(ボランティア募集以外※)	299	234	533
視察・ヒアリング	8	0	8
取材	1	0	1
その他	17	14	31
合計	452	382	834

※講座、セミナー、イベント開催案内、ニュースレター等

相談受付団体種別

受付団体	深草	瀬田	計
NPO法人	74	61	135
社会福祉法人	99	68	167
一般社団・財団法人	38	25	63
公益社団・財団法人	69	79	148
その他の非営利法人	23	7	30
任意団体	34	38	72
幼稚園・保育園等	0	2	2
児童館・学童保育	0	0	0
小・中・高	1	6	7
特別支援学校等	0	0	0
教育委員会	4	7	11
他大学・専門学校	18	10	28
企業	37	33	70
公共施設・社会教育施設	21	12	33
官公庁	23	25	48
その他	6	4	10
学内	4	5	9
一般個人	1	0	1
合計	452	382	834

広報依頼分野別	深草	瀬田	計
子ども・青少年	114	89	203
高齢者	13	32	45
障がい児・者	34	33	67
医療	5	10	15
国際協力・交流・在住外国人支援	69	34	103
人権	8	2	10
貧困	5	24	29
環境	28	46	74
災害	10	7	17
文化・芸術	19	3	22
スポーツ	10	6	16
動物愛護	0	0	0
平和	6	4	10
まちづくり	26	30	56
農業	0	1	1
中間支援	52	18	70
その他	46	46	92
助成金	8	12	20
総合情報	38	22	60
ニュースレター	182	129	311
合計	673	548	1,221

2

ボランティアリーダー育成事業

ボランティア初心者からスキルアップを目指す人等、レベルや興味関心に応じた講座や体験の機会を用意しています。

Ryuボラ！『スポーツフェスin 瀬田東』

2024.5.25 SAT

ねらい 市民イベントの運営補助を通して学生が瀬田地域のまちづくり活動の一つを体験し、今後のボランティア活動のきっかけとするために、コーディネーター引率のもとで活動する。

内容 瀬田キャンパスの地元である瀬田東学区で開催されるスポーツイベントで、本部での食券販売や模擬店運営（焼きそば、ポップコーン、綿菓子、飲み物販売など）、ポッチャ体験ブースの運営など、地域住民に楽しんでもらえるようイベントを盛り上げました。事前準備や後片付けも含め、朝早くから夕方まで活動しました。

参加者の声 沢山動いて沢山の人と関わって、今まで他人と関わること自体避けてきた自分だったけど、新しいことにチャレンジして大きな一歩を踏み出せたと思った。大変だったけど自分の中でとても充実していた。

参加人数 26名

協力団体 瀬田東学区スポーツ協会



Ryuボラ！『砂川夏まつり』

2024.7.27 SAT

ねらい 初めての学生でも参加しやすいようにコーディネーターの引率のもと、大学の近隣地域のまちづくりの現場に関わる事で、自身が地域の担い手である事を実感する。

内容 深草キャンパス東隣にある砂川小学校で開催される『砂川夏まつり』で、子ども遊びブースの運営や飲食ブースの販売補助、子どもボランティアのサポートを中心に活動しました。来場された地域住民の方々や子どもたちに楽しんでもらえるよう、イベントを盛り上げました。

参加者の声 地域のお祭りには大勢の人々が運営に関わっていることを実感しました。ボランティアは体力をとっても使い大変でしたが、それを越える達成感と子どもたちが喜んでくれることにとてもやりがいを感じました。

参加人数 16名

協力団体 砂川夏まつり実行委員会



Ryuボラ！『森の風音』

2024.11.17 SUN

ねらい

今後のボランティア活動のきっかけとするために、コーディネーター引率のもとで瀬田地域の環境保全活動の一つを体験する。

内容

瀬田キャンパスの隣にある『びわこ文化公園』西ゾーンの森林・里山整備に取り組む『森の風音』の活動を体験しました。枝垂れ桜やミツマタ等の苗木を植えるための穴掘り活動を行いました。活動後は団体の方に園内を案内してもらい、環境を保全していくために継続して人の手を入れていく大切さを学びました。

参加者の声

代表の方が自ら木の根を切ってくださいたり、木や花についてのお話をたくさん聞けて楽しかったです！桜や紅葉が綺麗な季節にまた来ようと思います。

参加人数 8名

協力団体 森の風音



Ryuボラ！『障害者スポーツのつどい』

2024.12.8 SUN

ねらい

ボランティア活動をするきっかけづくりとして、コーディネーター引率のもと、実際に活動を体験する。障がい者スポーツへの理解を深め、障がいの有無にかかわらず少しの配慮で共にスポーツを楽しめることを体感する。

内容

月に一度開催されている「障害者スポーツのつどい」に参加し、運営サポートや実際に来場者の方と一緒に卓球バレーやトランポリン、パラバレーやバスケット等を楽しみました。運営をするだけでなく、一緒にスポーツを楽しむ事で来場者の皆さんと関係性を深めました。

参加者の声

スポーツを通していろいろな人と関わることで、協力し合ったり、喜びを分かち合ったりできるので、活動していて楽しかったです。

参加人数 8名

協力団体 一般社団法人京都障害者スポーツ振興会



ボランティア入門講座

2024.5.2 THU

ねらい

ボランティアについて基礎的な理解を深める

内容

- ① ボランティアのイメージ
- ② ボランティアってなんだろう？
- ③ ボランティアの魅力や活動の種類
- ④ ボランティアに参加したいと思ったら？
- ⑤ ボランティア・NPO活動センターの紹介

参加人数	75名
------	-----



ボランティアコーディネーション力 3級検定

2024.12.7 SAT

ねらい

ボランティアコーディネーションへの理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動する力をつける。

内容

認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会と共催で実施し、対面での講座と試験をおこないました。一般、他大学生からの申込みも6名あり、幅広い方々にとって受験の機会を創出する事が出来ました。

参加人数	32名
------	-----

協力団体	認定NPO法人 日本ボランティア コーディネーター協会 (JVCA)
------	---------------------------------------



災害ボランティア入門講座 ～ボランティアする前に知っておこう！～

オンライン講義 2024.6.19 WED

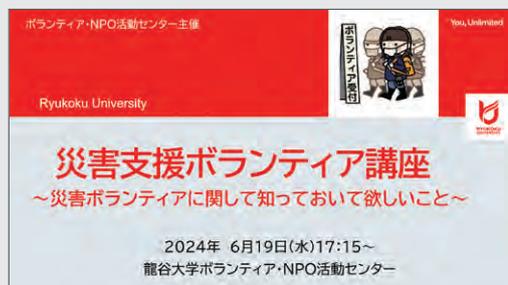
ねらい

災害ボランティアについて理解を深め、いざという時に、状況を判断しながら動ける人材を育成する

内容

- ① 令和6年能登半島地震に関すること
- ② 災害ボランティアって何だろう？（活動内容や歴史など）
- ③ 活動にあたって気を付けてほしいこと
- ④ 災害ボランティア体験談
- ⑤ 「龍谷大学災害復興支援ボランティア活動に伴う交通費助成金」の説明

参加人数	37名
------	-----



リーダー養成講座

「リーダーになりたい？なりたくない？」
～新時代に求められるリーダーの多様なカタチ～

2025.2.3 MON

ねらい

ボランティアやサークル活動等に取り組む学生のスキルアップをめざす。

内容

「リーダーってどんな人？」 「リーダーシップって何？」 「フォロワーって？」等といったことを、理論や事例などを交えながらワークショップを通して、一緒に考える講座を実施しました。

参加人数	48名
------	-----

協力団体	川田 虎男氏 (NPO法人ハンズオン埼玉代表理事)
------	---------------------------



3

体験学習プログラム

訪問先の地域が抱える問題に触れるとともに、現地NPO/NGO等との交流を通して課題解決の取り組みなどを体験的に学ぶプログラムを行っています。

インドネシアの教育と環境を実感するスタディツアー

2025.2.20^{THU} - 27^{THU}

ねらい 海外のボランティア等に関心のある学生が貧困・福祉・環境問題など様々な課題を抱える国を訪れ、その現状に触れながら現地のNPO・NGOなどとの交流を通じて体験的に学ぶ。

内容

- ・経済発展途上のインドネシアを訪れ、その実情を教育と環境の観点から見て学び、考えました。
- ・国の今後の成長を支えるインドネシア大学生や子どもたちと交流したり、環境改善のための現地の活動に参加しました。
- ・現地訪問以外に、ツアーの学びを充実させるための事前学習や、帰国後には学びを言語化するための事後学習を行いました。

参加者の声 今までは日本のことしか見ていなかったけれど、インドネシアのことを知ることでさまざまな問題が世界全体で解決していかなければいけないことであると考えさせられました。様々な問題に対して自分には関係ないと思うのではなく、自分ごととして取り組みを行うことが必要であると思いました。

参加人数 4名

協力団体 公益社団法人アジア協会アジア友の会



フィリピンスタディツアー

2025.3.5^{WED} - 12^{WED}

ねらい 海外のボランティア等に関心のある学生が貧困・福祉・環境問題など様々な課題を抱える国を訪れ、その現状に触れながら現地のNPO・NGOなどとの交流を通じて体験的に学ぶ。

内容

- ・マニラ首都圏の貧困地区と農漁村ペレーズを訪問し、住民へのインタビューや子どもたちとの交流、フェアトレード商品生産体験等を行いました。
- ・戦後を生き抜いた人々のリアルなお話を聞き、戦争と貧困の繋がりについて学びました。
- ・現地訪問以外に、ツアーの学びを充実させるための事前学習や、帰国後には学びを言語化するための事後学習を行いました。

参加者の声 都市スラムでは普段から見ることができない街の様子や人々の普段の様子を見ることができたのが特に印象的でした。言葉は少し悪いかもしれませんが、いまにも崩れそうな家に普通に人が住んでいて、普通に日常があったことにすごく衝撃を受けました。

参加人数 5名

協力団体 認定NPO法人アクセス-共生社会をめざす地球市民の会



災害を学ぶスタディツアー ～東日本大震災から学ぶ、まちづくりと防災・減災in宮城県石巻市～

2024.12.25 WED - 28 SAT

ねらい 日本国内のさまざまな地域で、住民やNPO等との交流を通じて地域が抱える問題に触れると共に、ボランティア等の体験学習を通じてより深く社会について考えるきっかけとする。今回は災害を他人事ではなく、自分事として捉え、防災・減災について考えられるようになることを目指す。

内容

- ・宮城県石巻市を訪れ、東日本大震災について学ぶと共に被災地域の防災・減災への取り組みを学びました。
- ・震災関連施設の訪問、まちの復興や防災教育に取り組んできた方や団体からのお話、復興ガーデンの整備活動、復興公営住宅での清掃活動と交流等
- ・現地訪問以外に、ツアーの学びを充実させるための事前学習や、学びを言語化するための事後学習を行いました。

参加者の声 まずは、震災について詳しく知らない人、あまり向き合ってこなかった人などを中心に、今回得た学びを伝えたいです。知識があるのであれば、実際に現地に足を運んでもらうことの大切さを伝えたいです。私自身としては、今住んでいる京都市、伏見の防災についてもう一度調べてみようと思います。

参加人数 16名

協力団体

伝承交流施設 MEET門脇／震災遺構門脇小学校／震災遺構大川小学校／雄勝ローズファクトリーガーデン／のぞみ野第2町内会／「ウィーアーワン北上」佐藤氏／高橋頼雄氏



体験学習プログラム活動報告会

国内(災害を学ぶスタディツアー) 2025.1.17 FRI

海外(インドネシア/フィリピン) 2025.4.30 WED

ねらい 体験学習プログラムの参加者が訪問地域で学んだことや感じたことを自分の言葉で伝え、聴講者に現状を知ってもらうとともに、言語化することで自身の成長機会とする。

内容

- ①体験学習プログラムの意義／協力団体の紹介など
- ②今回の日程・訪問先の紹介
- ③参加学生からの報告
- ④会場からの質疑応答／関係者からのコメント

参加者の声 国内：今までは大きな地震が来るとニュースで聞いてもあまり自分事のように考えていなかったが、今回の発表を通していつ大きな地震が来るかわからない、明日があることが当たり前ではないと考えるようになり、まずは家の近くの避難場所を知ることから始めてみようと思った。

海外：環境、教育、戦争といった、それぞれ別のこのよう、根本は全てが繋がって社会問題が生み出されているということに改めて気付かされました。それを目で見て感じて、伝えたいと思ったことを一人一人の言葉や思いで訴えかけていたことが伝わりました。

参加人数 国内：99名 海外：32名 (いずれも関係者・オンライン参加者含む)

協力団体 体験学習プログラム訪問先の方など



4

学生スタッフのボランティア企画

センターに所属する学生スタッフが、地域や学内の様々な団体や行政等と連携し、ボランティアに関する企画を立案し、実施しています。このような企画が、ボランティア経験の少ない学生の参加の機会にもなっています。

出張ボラセン

2024.7 2024.11

ねらい センターで誰かが来るのを待つのではなく、センターから外へ出て学生へ働きかける。また、地域団体を招いて活動やその魅力を直接伝えてもらうことで、学生の興味関心を高める。

内容 地域団体や学生団体を招き、各団体の取り組みや魅力について話をしてもらったり、ポッチャ体験ができる場を設けました。また、学生スタッフ自身が行っているボランティア活動についての内容や魅力も伝えました。7月と11月で計5回実施しました。

企画者の声 各団体の協力により、地域とのつながりを持つことができました。ボランティア紹介の他にも一般学生と学生スタッフや地域がつながる方法を模索していきたいです。また、企画メンバーだけで動くのではなく、学生スタッフの協力を得ながら行うことで、活動に広がりがあると感じました。

参加人数 72名（5回合計）

協力団体 Fortis滋賀/龍谷大学能登支援ネット/NPO法人りあん



大津祭への協力

宵宮：2024.10.12 SAT 本祭：2024.10.13 SUN

ねらい ・瀬田キャンパスのある大津のまちの伝統文化を盛り上げる。
・歴史あるお祭りに参加することの楽しさや、それを通じて我々も伝統文化継承の当事者になることができるということを多くの龍大生に伝え、ボランティアのやりがいを感じてもらう。

内容 宵宮では、会場設営や曳山の宵宮曳きを、夕方からは本部テントで「大津祭見て歩きマップ」を観光客に渡すなど、祭りを支えるための活動を行いました。本祭では、曳き手や巡行路の安全サポーター、本部テント等でボランティア活動。今年も神功皇后山を担当させていただき、25名の学生が曳き手ボランティアとして地元の皆さんと一緒に巡行しました。曳き手以外にも、先頭や最後尾で登り旗を持つ役割を交代しながら取り組みました。その他に、事前説明会や粽まきボランティア等を通して、大津祭を知る機会を設けたり、地域の方と交流する機会を設けました。

企画者の声 上手くいかないこともありましたが、仲間の力を借りて何とか終えることができました。お祭り中に笑顔で活動する学生の姿を見れたことや、「楽しかった」「来年も参加したい」という声を聞いたことが何より嬉しかったです。リーダーになった際、大津祭の魅力を1人でも多くの人に広めたいという思いがあったので、達成感を強く感じました。

参加人数 47名

連携団体 NPO法人大津祭曳山連盟



深草ふれあいプラザ2024への協力

2024.10.20 SUN

ねらい

- ・ 龍大生が深草地域の一員であるという自覚を持つ
- ・ 学生のボランティア参加のきっかけを作る
- ・ 深草地域の方々とのつながりを持つ
- ・ センターの認知度向上

内容

藤森神社境内・藤の森公園で行われた深草ふれあいプラザにおいて、防災学習ブース（魚釣り・防災グッズ作り・能登半島でのボランティア活動報告）の運営やお祭り全体の運営サポート（ゴミ分別ブースや飲食ブース等の行列整理、舞台アナウンス、着ぐるみ補助等）を行いました。

企画者の声

深草ふれあいプラザは、ただ地域住民の皆さまに楽しんでもらうだけのお祭りではなく、私たち学生と地域の方々と繋ぐコミュニティ作りの場という一面もあると思います。このお祭りだけで終わらせるのではなく、今回新たに生まれた繋がりから、さらに深い関わりを持って地域に貢献することができるよう努めていきたいです。みんなで1つのイベントを作り上げたという経験は、今までのボランティア活動にはなかった達成感がありました。

参加人数 67名

連携団体 深草ふれあい事業実行委員会/伏見区役所深草支所



瀬田龍谷祭 (企画展示)

2024.10.26 SAT - 27 SUN

ねらい

- ・ ボランティアの魅力や社会問題に対する興味関心を高めること、特に災害の展示を通じて「未来」について考えてもらうこと
- ・ 展示を通じたセンターの認知度向上

内容

「私達は災害をどう考えるか？」をテーマに掲げ、福島県や宮城県スタディツアーの参加学生の感想や気づき等を伝える展示や能登半島地震災害支援ボランティア活動に関する展示を行いました。会場には「能登半島地震/豪雨災害」支援のための募金箱を設置しました。

企画者の声

来場者が熱心に見てくれていて、自分が参加したスタディツアーなどでの体験を語れたので、災害をテーマにできて良かった。災害の展示で関心を持ってもらえ、募金が集まった。ポッチャ体験も多くの人が参加してくれたり、展示を通してボランティアに興味を持ってくれた人もいて、出展してよかった。

来場者数 228名



深草龍谷祭(企画展示/模擬店)

2024.11.2 SAT - 4 MON

ねらい

- ・幅広い世代の方々に多様な社会問題やボランティアについて知ってもらうこと
- ・展示を通じたセンターの認知度向上

内容

『エアボラで行く!ボラボラすごろく旅』をテーマに「子ども」「災害」等、4ジャンルとセンター紹介の5つのブースを作成し、すごろく形式で展示を楽しんでもらえるように工夫をしました。会場には「能登半島地震/豪雨災害」を支援するための募金箱を設置し、模擬店で販売した焼き鳥の収益(42,188円)も全額寄付しました。

企画者の声

展示では、想定を上回る方に来てもらえた。展示の内容がよかったという声も多く、学スタみんなで協力して運営できてよかった。誘導などを改善し、来年につなげたい。今年は、瀬田で模擬店に出店できなかったため、深草に参加してもらい、協力して運営をすることができた。

来場者数	687名
------	------



龍谷キッズふれあいパーク

2025.3.26 WED

ねらい

- ・小学生と大学生が触れ合う場を作る
- ・ボランティア参加しやすい環境を作る

内容

近隣にあるふかくさ輝っず児童館の子ども達80名を深草キャンパスに迎え、学内で学生ボランティア54名と一緒に遊びました。午前中は専精館でドッジボール等を、午後は和顔館教室での折り紙遊び等やキャンパス全体を使ったウォークラリーを実施し、子ども達との交流を深めました。

企画者の声

小学生と遊んだり話したりする機会がこれまで多くなかったため、どんな遊びをしたら楽しんでもらえるのか最後まで悩みましたが、作った物を嬉しそうに見せてくれたり、楽しそうに工作したりしている子どもたちを見て私も一緒に楽しむことができ、この企画をして良かったと感じました。私自身、この企画を通して成長出来たと感じる部分も多々ありますが、運営を進める中で先輩方に頼ってしまうことが多かったため、もっと成長したいと思いました。

参加人数	54名
------	-----

協力団体	ふかくさ輝っず児童館
------	------------



防災・減災そなえパークの日への協力

2025.3.2 SUN

わらわ

- ・ボランティア参加者およびイベント来場者の災害に関する知識や防災意識を高める
- ・地域との繋がりをより強くする

内容

瀬田キャンパスの隣にあるびわこ文化公園で行われる防災イベントへ、展示や防災クイズ等の体験ブースを出展予定でしたが、雨天により中止となりました。

参加人数	雨天により中止
------	---------

協力団体	滋賀県営都市公園 びわこ文化公園 (指定管理者：びわこ文化公園ゆうゆうパートナーズ)
------	---

ボラセン学生企画
秋の出張ボラセン!!

ゲスト「Fortis滋賀」

11.18 MON | 12:30-13:30 会場：グローバルキッチン
11.21 THU | 12:30-13:30 会場：グローバルキッチン

イベント内容
出張ボラセンとは？
ボラセンとは、生涯学習の場にあるボランティア・NPO活動センターのことです。ボランティアらしい事業や活動がみなさんにボランティアについて紹介し、疑問にのたたりしています。誰でも参加することが出来るので気軽に参加してください！

Fortis滋賀とは？
選りすぐった記事に活動されているボランティアチームです！

いつもの活動場所
ボランティア・NPO活動センター
活動時間：9:00~17:00 休館日：ありです！
火曜日のみ休館（土、日、祝祭日）

エアポラで行く！
ボラポラすごろく旅

ボランティア・NPO活動センター

一緒に新しい発見を見つける旅に出ませんか？

災害やまちづくりなどの5つのジャンルのボランティアや社会問題がわかっちゃいます！

場所：深草キャンパス21号館602号室
日時：11/2,11/3 10:00-17:30
11/4 10:00-14:30

第30回 深草ふれあいプラザ ボランティア募集

ボランティア活動時間
10月20日(日) 9:00~17:00

行先整理や販売補助など各ブースのお手伝い
着ぐるみの着用と補助
ゴミ分別の案内 etc...

幅広い世代の人と開かれるボランティア！
地域交流したい人におすすめ！

場所：藤森神社境内 藤の森公園 (車検から徒歩5分)
お祭り開催日時：令和6年10月20日(日) 10:30~14:30(雨天中止)

10月11日(金)17:30~事前説明会(原則参加)(オンライン可)

詳しくはボランティア・NPO活動センターまで
深草：成瀬 1F(075-645-2047) 瀬田：青志 階(077-544-7252)

ボランティア・NPO活動センター
出張ボラセン

ボラセンとは、生涯学習の場にあるボランティア・NPO活動センターのことです。ボランティアらしい事業や活動がみなさんにボランティアについて紹介し、疑問にのたたりしています。誰でも参加することが出来るので気軽に参加してください！

出張ボラセンとは？
出張ボラセンとは、生涯学習の場にあるボランティア・NPO活動センターのことです。ボランティアらしい事業や活動がみなさんにボランティアについて紹介し、疑問にのたたりしています。誰でも参加することが出来るので気軽に参加してください！

7/8(月) Fortis 滋賀
選りすぐった記事に活動されているボランティアチームです！

7/9(火) 龍谷大学 龍登支援ネット
選りすぐった記事に活動されているボランティアチームです！

7/10(水) NPO法人りあん
選りすぐった記事に活動されているボランティアチームです！

ボランティア・NPO活動センター 077-544-7252
活動時間：9:00~17:00 (土、日、祝祭日)

ボランティア募集
防災・減災そなえパークの日

「防災・減災そなえパークの日」とは、龍谷大学瀬田キャンパスの近くにある「びわこ文化公園」は地域の集いの場であると同時に、地域防災の拠点です。このイベントでは1つ起こるかわからない巨大地震などの災害に備え、楽しみながら防災を学べます。

日時：2025年3月2日(日) 9時~16時(予定)
場所：びわこ文化公園(瀬田駅へバス10分)

活動内容
● イベント準備・片付け
● 龍谷大学出展ブースの運営
○ 展示… 能登災害ボランティア活動
○ 体験… 防災クイズ(Oxクイズ)、防災工作 など
● 他団体の出展ブースのお手伝い

ボランティア説明会
2月20日(木) 14時~1時程度
ZOOM開催

申し込みフォームはこちら！

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
問い合わせ：sonaepark123@gmail.com

大津祭
recruit volunteers!!

曳き手、警備ボランティア参加者 必須プログラム

①ちまき巻き in大津祭奥山展示場
大津祭に参加するボランティアさんと交流しながら大津祭について知識を深めたりちまき巻きをしてみたいです！

②本祭
10月13日(日)7:30~18:00
(朝の炊き出しは後日06:00~09:00)

※実施日は複数あります。日程はセンターホームページに掲載してあります。11月まで1日参加して大丈夫！

センターホームページ
参加自由プログラム
③山建て・曳き初め 10月6日(日)
本祭(奥)奥山の山建てを見学してから、実際に「曳き初め」を体験していただきます。

※どのプログラムも投票実施日にはありません。詳細は後日、LINEのオープンチャットにて連絡します。

申し込み手順
1. 右の申し込みフォームに必要事項を記入の上、送信
2. 申し込みフォーム回答後、フォームに記載されている参加者用オープンチャット入室

5

学生スタッフの班活動

学生スタッフは、センターの活動や認知度を高めたり、センターの環境を整えたり、また、コーディネーションのスキルアップなどを目的に、班に分かれて活動しています。

アクティブ班(深草)

通 年

わらい

センターの活性化を主な目的とし、ボランティア活動への参加を通して、学生スタッフのコーディネーション力と意識の向上を図る。また、活動や様々な情報をポップにしてセンターに貼り出すことで、来室者や学生スタッフへの情報共有を促す。

内容

- ・4~5人のグループに分かれて学生スタッフがあまり参加していないボランティア活動を中心に参加し、その情報をまとめ、学生スタッフに共有
- ・季節のポップや配架用のポップ等を作成、掲示
- ・学生スタッフプロフィール帳の作成

班人数

25名



コーデ班(深草)

通 年

わらい

学生スタッフのコーディネーション力を向上させる。相談対応シフト中の時間の使い方をより良いものにする。

内容

- ・前期シフトのふりかえりと自己採点の実施、来室者対応マニュアルの更新
- ・コーデに関する悩みや改善点を募集し、対応
- ・センター前にチラシラックを設置し、毎月おすすめボランティアを配架
- ・窓に外向けの広報ポップを掲示
- ・相談対応シフトの作成、貸出用傘の管理 など

班人数

26名



広報班(深草)

通 年

わらい

龍大生と教職員に対して龍谷大学ボランティア・NPO活動センターが実施している活動を、各種広報媒体を通して認知してもらう。

内容

- ・広報誌「ボラゴン」を年2回発行
- ・ボラセンタイムズを年3回発行
- ・SNS（センターX, Instagram）への投稿：週1回程度
- ・CaféRyukokuのホワイトボードでのセンター事業の広報 など

班人数

26名



コーデ班(瀬田)

通 年

ねらい

コーデ日誌やマニュアルの作成、模擬コーデ企画などを通して学生スタッフのボランティアコーディネーション力向上のサポートをする。学生スタッフの、普段の相談対応シフト活動を、より有意義なものにすることを旨とする。

内容

- ・学生スタッフの相談対応シフトの調整（前期・後期）
- ・模擬コーデ週間（前期）、模擬コーデ月間（後期）を設定
- ・相談対応シフト中の活動のふりかえりの呼びかけ・集計
- ・コーデ日誌の管理
- ・相談対応マニュアルの作成
- ・チラシ配架用タグの作成 など

班人数 13名



広報班(瀬田)

通 年

ねらい

主に龍谷大学の学生に向けてボランティア情報等を発信することによって、ボランティア・NPO活動センターの存在をアピールするとともに、ボランティア啓発を行う。

内容

- ・広報誌「ボラポの日記」を3回発行（5月、7月、9月）
- ・学生スタッフXの投稿：24件、Instagramの投稿：24件
- ・センター前の掲示板の装飾を季節に応じて実施

班人数 13名



環境整備班(瀬田)

通 年

ねらい

センターの環境を整備する事で、学生スタッフの活動の円滑化、及び来室者の快適な利用を目指す。

内容

- ・センターのウェルカムボードを作成し、キャンパス内に設置
- ・リユース傘貸し出し時のセンター紹介マニュアルを作成
- ・次年度以降に向けて環境整備班の活動のマニュアル作成
- ・センターの環境美化および大掃除の呼びかけ

班人数 14名



発掘し隊(瀬田)

通 年

ねらい

センターに寄せられるボランティア活動に参加して、活動の様子や魅力などチラシなどからは得ることができない情報を得る。また、それらの情報を可視化してボランティア相談に活かす。

内容

- ・以下の活動に体験参加するとともに、スタッフの方からお話を伺い、それらを発掘ノートにまとめました。
 - ①くらは庵・ゆらは庵：子どもや若者の居場所支援
 - ②藪の傍：竹林整備、メンマづくり
 - ③放課後等デイサービス柊の月希：障がい児支援（学習支援・遊び）
 - ④東山アートスペース：障がいのある方のアトリエ活動のサポート
 - ⑤放課後等デイサービスぐっどらいふ・ぐっどたいむ：障がい児支援
- ・その他、学生スタッフが参加したボランティア活動についてボランティアノートの作成を呼びかけ、7件作成。

班人数

19名



新歓活動(学生スタッフによる説明会)

2024.4

ねらい

- ①新学生スタッフの獲得
- ②センターを広く知ってもらい、利用を促進する

内容

新入生のオリエンテーション期間に学内で学生スタッフ募集のチラシを配布したリブースを出展しました。また、学生スタッフ募集のためのガイダンスを各キャンパスのセンターで実施。学生スタッフの活動概要や登録の流れ等について説明しました。

参加人数

深草：ガイダンス86名 学生スタッフ登録：21名
 瀬田：ガイダンス57名 学生スタッフ登録：19名



学生スタッフオリエンテーション研修

合同：2024.6.15 SAT - 16 SUN

ねらい

- ①新スタッフ：センターの役割と学生スタッフ活動について正しく理解できるようになる
- ②既に活動している学生スタッフ：センターへの理解をより深め、新スタッフとの関係を構築する

内容

新学生スタッフに向け、センターの役割や学生スタッフ活動について理解してもらうための研修で、先輩スタッフも一緒に参加します。学生スタッフとコーディネーターの協働で実施しています。体験談ワーク、コーデワーク、班活動ワーク、懇親会という組み立てで実施しました。

参加人数

1日目：103名 2日目：89名



夏研修(夏合宿)

夏季休暇：2024

ねらい

- ・前期のふりかえり
- ・学部移転に伴う不安を払拭する
- ・学生スタッフの交流促進

内容

夏季休暇期間中に、深草・瀬田それぞれのキャンパスごとに前期の活動をふりかえる研修(瀬田は合宿)を行いました。それを踏まえ、合同研修を実施し、次年度の学部移転を見据え、各センターで感じている課題を出し合い、その解決のためのアイデアを出し合ったり、日常から参加しているボランティア活動を紹介・共有し、積極的にコミュニケーションを図りました。

参加人数

深草：29名 瀬田：18名 合同：69名



春研修

合同：2025.3.17 MON

ねらい

次年度の活動のすすめ方、特に分野別チームなどについて考える。また、学生スタッフ間の交流を促進させ、学部移転後の活動をスムーズに行えることを目的とする。

内容

2024年度の活動のふりかえりを行った後、分野別チーム毎に分かれて、これからのチームの運営方法や活動目標、具体的な活動内容についての話し合いを行い、全体で共有しました。

参加人数	41名
------	-----



学生スタッフの面談

2025.1-3

ねらい

学生スタッフのエンパワメント

内容

1年間の活動を振り返るとともに、次年度に向けた確認等のためにコーディネーターが学生スタッフ一人ひとりと面談を行いました。

参加人数	深草：61名 瀬田：53名
------	---------------

7

その他、協力企画等

センターには、様々な団体や行政等から事業への協力依頼があります。どのように関わるかを検討し、学生スタッフとコーディネーターの協働によりそれらの依頼に対応しています。各センター事業に参加した学生に協力を呼びかけることもあります。

萱野神社例大祭

2024.5.5 SUN

内容

瀬田駅近くにある萱野神社で行われる春の例大祭の神輿の巡行行事において、地域の方々と共に参加しました。学生は、衣装を着て神輿の先導隊列として歩行する行列先導人と、子ども神輿のサポートを行いました。

参加人数 学生28名

主催 南大萱地域活性化推進会



祇園祭ゴミゼロ大作戦

2024.7.15 MON -16 TUE

内容

祇園祭宵々山と宵山の2日間に、ゴミ分別ブースでの分別誘導や清掃活動、募金活動等を行いました。

参加人数 学生16名

主催 一般社団法人 祇園祭ごみゼロ大作戦



一里山自治会夏祭り

2024.8.17 SAT

内容

瀬田キャンパスに近い自治会の夏祭りにおいて、地域住民や中学生とともに、会場設営・片付けや模擬店等の運営を行いました。

参加人数 学生27名

主催 一里山自治会



萱野神社夏祭り

2024.8.24 SAT

内容

瀬田駅近くにある萱野神社で行われる盆踊り、夏祭りにおいて、地域の方が出される屋台の手伝いや会場案内等の運営を手伝いました。

参加人数 学生16名

主催 南大萱地域活性化推進会



地域とつながる 甲北防災フェスタ

2024.9.14 SAT

内容

甲西北中学校の生徒が中心となって実施される防災イベントにおいて、能登半島地震の支援活動を中心とした展示ブースの出展と、イベントの運営サポートを行いました。

参加人数 学生9名 職員1名

主催 湖南市立甲西北中学校コミュニティスクール



錦織寺「仏の子のつどい」への協力

2024.11.24 SUN

内容

真宗木辺派錦織寺（滋賀県野洲市）の行事「仏の子のつどい」の遊びパートを、学生スタッフと社会学部の『社会共生実習』を履修する学生がボランティアで企画・運営し、親子連れの来場者に楽しんでもらいました。

参加人数 学生6名

主催 真宗木辺派本山錦織寺



奈良マラソン

2024.12.8 SUN

内容

給水ブースの運営等で奈良マラソンを支えました。

参加人数 学生11名

主催 奈良マラソン実行委員会



びわ湖マラソン2025

2025.3.9 SUN

内容

びわ湖マラソン2025のフィニッシュ会場にて、ランナーや来場者への給食提供やゴミの回収等を行いました。

参加人数 学生49名

主催 びわ湖マラソン大会実行委員会



朝日新聞厚生文化事業団主催令和6年度能登半島地震
大学ボランティアセンター活動報告会

2024.7.6 SAT

参加人数：学生3名、職員1名
主催：社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

「災害時の支援活動の協力に関する協定」を締結している大学を対象として開催され、学生から活動報告を行いました。報告会のプログラムは、①自己紹介、②4大学からの学生発表「令和6年能登半島地震災害支援に参加して」、③ワークショップ（災害ボランティア活動後の気持ちの向き合い方について）でした。

日本財団ボランティアセンター大学連携ネットワーク会議

2024.9.20 FRI

参加人数：職員1名
主催：公益財団法人 日本財団ボランティアセンター

災害支援のボランティアコーディネーションについて、本学の取り組みの紹介を中心に講演を行いました。

マイボトル利用促進キャンペーンへの協力

2024.10-11

参加人数：学生5名、職員1名
主催：公益財団法人 淡海環境保全財団

温暖化防止のためのマイボトルと大学設置の給水機利用を呼びかける『淡海環境保全財団』の取り組みに、学生スタッフが賛同して協力しました。水筒利用と給水機利用を呼びかけるチラシやアンケートを手配し、クイズ当選者にはマイボトルをセンターで受け渡ししました。

地域防災つながるしくみづくり

2024.11.4 MON

参加人数：学生5名
主催：NPO法人まちづくりスポット大津

NPO法人まちづくりスポット大津主催の防災イベントにおいて、能登半島地震の支援活動についての展示出展および、能登支援ネットの学生による活動報告を行いました。

3大学交流会

2024.11.16 SAT

参加人数：57名（内龍大生29名）
主催：3大学ボラセン学生有志

京都産業大学ボラセン、佛教大学ボラセンの学生スタッフとともに交流会を実施しました。自身の大学やボラセンの自慢ポイントを報告し合い、各ボラセンの特徴について知り合いました。その他今までに参加したことのあるボランティアを切り口に模擬コードをおこない、相談対応の理解に努めました。

大津市ボランティアセンター運営委員会

年間3回

参加人数：学生1名
主催：社会福祉法人大津市社会福祉協議会

大津市ボランティアセンターの運営委員会に瀬田の学生スタッフ代表が委員として参加。他の運営委員と共にボランティアセンターの運営や助成金等について意見交換、議論の場に参加しています。

2024年度 企業・団体の社会貢献活動セミナー

「令和6年能登半島地震から学ぶ～市民、学生、企業の支援活動と災害時の連携・協働支援を考える～」

2024.12.5 THU

参加人数：学生2名、職員1名
主催：淡海フィランソロビーネット・
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会・滋賀県

滋賀県社会福祉協議会の依頼を受け、セミナー（講演および企業・学生からの報告等）において学生2名が能登半島地震での支援活動について報告を行いました。

砂川学区防災訓練

2024.12.15 SUN

参加人数：学生4名、職員2名
主催：砂川学区自主防災会

本学近隣の砂川学区の防災訓練に参加し、地域住民と一緒にダンボールベットの組み立てや砂川小学校の防災施設の見学を行った後、炊き出し訓練の手伝いを行いました。

大津市文化財消防訓練

2025.1.18 SAT

参加人数：学生5名
主催：大津市

本学瀬田キャンパスの樹心館で行われた文化財の火災被害を防ぐための防災訓練に、学生スタッフが参加しました。訓練終了後は、緊急車両の見学や消防士の方からお話を伺いました。

福祉人材戦略フォーラム2025
～若者と福祉をつなぐために福祉を「ひらく」を考える～

2025.2.4 TUE

参加人数：職員1名
主催：一般社団法人 FACE to FUKUSHI

表題のイベントにゲストとして登壇。センターでの学生スタッフとの協働やボランティアを受け入れ方等について話をしました。

市民の参加と協働を進める
コーディネーション研究集会in京都 (JVCC2025)2025.2.22 SAT
-23 SUN実行委員：コーディネーター2名、学生スタッフ1名
当日運営ボランティア：12名、センター紹介有志：11名
主催：認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会・JVCC2025実行委員会
共催：龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

「多様な主体が生み出す“協奏”の力～京から紡ぐ未来のコーディネーション」をテーマに、本学で開催されました。多様なコーディネーターや関係者の学び合いを実行委員と学生ボランティアで運営。共催として会場準備、配信サポート等も担いました。

2024年度関西大学ボランティアセンター
学生スタッフ活動報告会及び他大学交流会

2025.3.1 SAT

参加人数：学生9名、職員2名
主催：関西大学ボランティアセンター

関大ボラセン他、本学含む4大学のボランティアに取り組む学生団体がそれぞれの活動内容について報告しました。後半はグループディスカッションを通して交流を深めました。

令和6年能登半島地震 第1回 災害支援ボランティア

2024.4.19 FRI - 21 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ①七尾市能登島緩目で旅館および民家の家財の運び出し、ごみの分別、掃除等を実施
- ②輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察
- ③防災食づくり体験

参加者の声

地震が起こって4ヶ月弱が経ち、テレビでも報道されることが少なくなり、能登半島地震への関心が薄れ始めています。私自身も能登半島地震への関心が薄れていました。しかし、今回のボランティア活動に参加し、能登半島地震が起こり、その影響がまだ残り続けているということをおぼろげに感じていたと強く感じました。今こうやって普通の生活ができていることに感謝するのはもちろん、被災地のために私に今できることは何かを考え、自分が見て感じた能登半島の現状を周りの人に伝えていきたいと思いました。

参加人数 15名

協力団体 朝日新聞厚生文化事業団より活動資金の一部を助成／浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター



令和6年能登半島地震 第1回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.4.24 WED

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第1回災害支援ボランティアの活動内容について、
ハイブリット形式で報告しました。

- ①学長挨拶
- ②概要説明(引率職員)
- ③活動内容動画上映
- ④参加学生報告
- ⑤質疑応答
- ⑥センター長挨拶

参加者の声

学生が見たこと、聞いたこと、体験したことを学生が自らの言葉で語ることはとても意義があると感じました。学生たちの真剣な表情もあいまって、テレビ等では伝えきれない被災地の想いを感じました。

参加人数 67名



令和6年能登半島地震 第2回 災害支援ボランティア

2024.5.24 FRI - 26 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 珠洲市で津波被害があった地域において、道路の側溝清掃を実施
- ② 輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察

参加者の声

今回震災後の能登にボランティアとして来るのは5回目になるのですが、石川県七尾市で実際に震災の被害を受けた身として、言葉にならない様々な感情を毎回感じます。そんな中でどこに行っても感じるの、地域の温かさやコミュニティの強さです。また、行くたびに一時的であったとしても笑顔で活動してくれる地域の方と、それを支えてくださる社協職員を含めたコーディネートして下さる方の継続した力の結晶であることも、併せて感じました。

参加人数	15名	協力団体	日本財団ボランティアセンター共催 / 珠洲市社会福祉協議会
------	-----	------	-------------------------------



令和6年能登半島地震 第2回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.5.30 THU

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

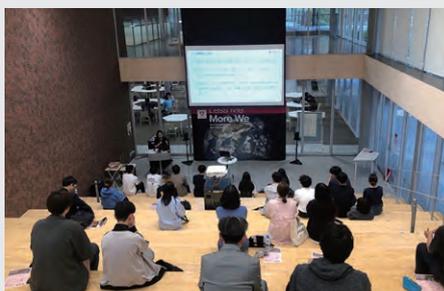
内容

第2回災害支援ボランティアの活動内容について、
 ①概要説明(引率職員) ②活動内容動画上映 ③参加学生報告
 ハイブリット形式で報告しました。
 ④質疑応答 ⑤課長挨拶

参加者の声

なぜこんなに時間が経っているのに支援がまだ来ていないのかと思っていたのですが、報告者が言っていた被災者の人が一生懸命頑張っている事を忘れてはいけないと言っていた事が印象に残りました。それは決して忘れてはいけない事だと非常に心に刺さりました。

参加人数	137名
------	------



令和6年能登半島地震 第3回 災害支援ボランティア

2024.9.3 TUE - 6 FRI

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察
- ② 珠洲市内の民家の災害ゴミの分別、瓦の運び出し、清掃等を実施
- ③ 一般社団法人BIGUP石巻の阿部氏のお話
- ④ 珠洲市蛸島の仮設集会所でのサロン活動
- ⑤ 国立能登青少年交流の家の北見所長のお話
 - ・ボランティア活動に加え、様々な立場で復興支援に携わっておられる方々からお話を伺いました。

参加者の声

現地に行き、報道よりも詳しく能登の現状を知ることができたので良かったです。北見さんのお話の「思い出がその人の支えになる」「いい思い出が乗り越える力になる」という言葉が印象に残っています。新しい発見が多く充実した4日間でした。

参加人数 21名

協力団体 日本財団ボランティアセンター共催/国立能登青少年交流の家/一般社団法人BIGUP石巻/珠洲市社会福祉協議会



令和6年能登半島地震 第3回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.10.9 WED

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第3回災害支援ボランティアの活動内容について、
ハイブリット形式で報告しました。

- ① 概要説明(引率職員)
- ② 活動内容動画上映
- ③ 参加学生報告
- ④ 質疑応答
- ⑤ 副学長挨拶

参加者の声

私では役に立たないのではないかとこの思いもあってなかなか現地へ行く勇気が出ていないので行かれた方は本当に尊敬します。また、そんな私でも役に立てそうなことも分かったので、次回に行けるかは分かりませんがどこかで行きたいと思います。

参加人数 68名



令和6年能登半島地震 第4回 災害支援ボランティア

2024.11.15 FRI - 17 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 珠洲市蛸島の仮設集会所でのサロン活動
- ② リポート珠洲の復興支援ツアーへの参加
- ③ 豪雨災害の土砂流入で埋もれた側溝の泥だし、家財や仏壇の搬出

参加者の声

現地に行ってみないと分からないことが多いのだと気づかされました。どれだけテレビを見ていても話を聞いていてもそれが勝つことはないのだと実感しました。ボランティアの最中は人の温かみを感じるばかりでした。人とつながるということは大変なことも嫌なこともあるかもしれませんが、勇気づけられたり支えられたりできるのも他でもない人であることを思い知らされました。参加してよかったです。

参加人数	15名	協力団体	浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター／珠洲市社会福祉協議会
------	-----	------	---------------------------------



令和6年能登半島地震 第4回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.11.28 THU

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第4回災害支援ボランティアの活動内容について、
 ①概要説明(引率職員) ②活動内容動画上映 ③参加学生報告
 ハイブリット形式で報告しました。 ④質疑応答 ⑤副センター長挨拶

参加者の声

報告会の中で1番印象に残ったことは、お茶会での被災者の皆さんの笑顔です。皆さんが笑顔で学生と交流している様子を見て、お茶会がいかに大切か、若い学生との交流で心が和むということかと思いました。また学生の報告を聴き「繋がり」の大切さを学びました。災害国である日本はいつどこで災害が起こるか分かりません。私も改めて地域の人たちとの交流を大切に、まずは元気な挨拶から始めてみようと思います。

参加人数	約50名
------	------



令和6年能登半島地震 第5回 災害支援ボランティア(教職員対象)

2025.3.21 FRI - 23 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ①能登町役場内浦総合支所にて炊き出し(約500食)および子ども縁日の運営サポート
- ②和倉温泉の被災施設の視察および被害状況の説明
- ③リポート珠洲の復興支援ツアーへの参加

参加者の声

臨機応変な対応が必要な場面が多くありましたが、助けあいながら作業することで、時間通りに食事を提供することができました。その裏では本願寺のスタッフの皆さんが前日深夜まで丁寧に準備をされていたことを後になって知り、頭が下がる思いでした。準備や段取りの大切さを学ばせて頂きました。また、ボランティアに参加していた本学の学生が本願寺の職員さんとの信頼関係を構築し、現場を任せられ奮闘している姿に感動しました。学生の力は凄いと改めて感じました。

参加人数 7名、センター職員5名

協力団体 内閣府より交通費の一部を助成/浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター

復興支援フォーラム 学生だからできること
～能登半島地震の支援と防災・減災～ (対面・オンライン)

対面オンライン 2025.3.6 THU

ねらい

この1年の支援活動をふりかえり、これからの能登の支援、更にはいつどこで起こるかわからない災害に対して何ができるのかを参加者と共に考える

内容

- ①基調講演 阿部 由紀氏 一般社団法人BIG UP石巻 代表理事
「災害と暮らしの関係性ー役割分担と調整機能の必要性ー」
- ②能登での活動経験学生による活動報告
西村太陽・井狩咲希・蔵本千優・越岡滉周
- ③講師と学生によるパネルディスカッション
コーディネーター：川中大輔副センター長
- ④物販&展示
・一般社団法人BIGUP石巻への支援金として、会場内に募金箱を設置しました。物販での収益を合わせて全額同団体に寄付しました。

参加者の声

印象に残っているお話は、支援に回る際は自分たちの意見や一般論を押し付けるのではなく、地域の歴史・背景を知りそれを重んじた上で支援していくということです。支援を受ける側の視点に立った時に、生活の中でボランティアを受け入れることもしんどいと思います。この考え方はとても大切だと感じました。また、近隣同士で交流している地域はお互いに助け合いができるとおっしゃっていたように、私自身も普段の生活から地域と繋がっておくことは大切だと感じました。

参加申込者数 92名

協力 阿部由紀氏(一般社団法人BIG UP石巻 代表理事)



「令和6年能登半島地震」 募金活動(入学式・新歓)

2024.4.1 MON, 2 TUE, 4 THU, 5 FRI

ねらい

- ・支援金・義援金として被災地域を応援する
- ・現地に行く以外にも応援できることを知る

内容

入学式及び新歓期間中にキャンパス内において、学生スタッフが能登半島地震の支援のための募金を呼びかけました。集まった募金は中央共同募金会へ支援金・義援金として寄付しました。
募金総額 132,082円 (入学式105,205円／新歓26,877円)

参加者の声

募金は街頭やテレビでも見るけれど、自分が募金箱を持って行うのは初めてでした。募金箱にお金を入れてもらったときは、とてもうれしかったですし、能登を応援したいという思いが広がっていけばいいなと思いました。

参加人数 学生スタッフ有志(深草7名／瀬田11名)



令和6年能登半島地震／豪雨災害緊急募金活動 龍谷祭展示会場への募金箱設置

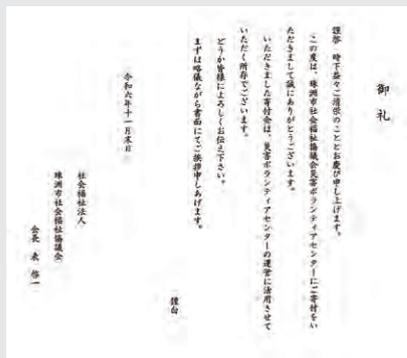
2024.10.9 WED - 11.8 FRI

ねらい

- ・支援金・義援金として被災地域を応援する
- ・現地に行く以外にも応援できることを知る

内容

4月以降継続して支援に入っている能登で発生した豪雨災害を受け、緊急募金活動を実施。SNSやポスター等で呼び掛け、募金箱をセンターおよび龍谷祭の展示会場に設置しました。募金で集まった金額に、龍谷祭模擬店での収益金額(42,188円)を加え、これまでボランティア活動に参加していた珠州市社会福祉協議会へ支援金として寄付しました。
募金総額 141,757円



能登半島地震 豪雨災害 支援金緊急募金



寄付先：社会福祉法人珠州市社会福祉協議会
募集期間：2024年10月9日～11月8日

センター内のカウンターに募金箱を設置しています。
ご協力お願いします。

災害復興支援ボランティア活動に伴う交通費等助成制度

通 年

わらう

学生が自発的に災害支援活動を行うことを支援する

内 容

災害復興支援ボランティア活動に参加する学生に対し、交通費および宿泊費等の半額を助成しています。助成額の上限は1回につき1万円、年間2回まで申請可能。

今年度は全て令和6年能登半島地震に関連する活動への助成という結果になりました。

参加者の声

実際に現場に足を運び考えられたこととして、被災から約5か月が経ってもテレビで見ている様子と変わらない現状だった。ボランティアが不足していると感じた。一方で、住民の方の優しさを感じられた、作業を行う中で住民の方と話す機会があったが、「石川は海鮮が美味しいよ、お昼一緒に食べよう」といったことばをもらい、支援をするはずが、自分がたくさんの支援を頂いた。復興にはまだまだ時間がかかるため、継続的に支援活動を行いたいと思った。

参加人数 延べ25名



災害復興支援ボランティア委員会規程

令和3年6月17日

(目的)

第1条 この規程は、龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）が社会貢献の一環として取り組む自然災害等の復興支援に係るボランティア活動に関して必要な事項を定め、迅速かつ円滑なボランティア活動の遂行を図ることを目的とする。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学に災害復興支援ボランティア委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に関する事項を審議・決定する。

- (1) 復興支援に係るボランティア活動の実施に関する事項
- (2) 復興支援に係るボランティア活動の内容とその範囲に関する事項
- (3) 復興支援に係るボランティア活動に要する経費等に関する事項
- (4) その他復興支援に係るボランティア活動に必要な事項

(構成等)

第4条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学部長 若干名
- (3) 学生部長
- (4) ボランティア・NPO活動センター長
- (5) ボランティア・NPO活動センター副センター長
- (6) ボランティア・NPO活動センター事務部長

(7) 学長が指名する学内の学識経験者 若干名

2 前項第7号の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員会が必要と認めるときは、構成員以外の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員長・副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

3 副委員長は、前条第1項第4号の委員をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

5 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(成立要件・議決要件)

第6条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数の同意をもって行う。

(事務処理)

第7条 この規程の運用に伴う事務処理は、ボランティア・NPO活動センター事務部が行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、評議会において決定する。

付 則

この規程は、制定日（令和3年6月17日）から施行する。

ボランティア・NPO活動センター規程

平成13年3月1日
 改正 平成15年5月15日
 平成17年7月21日
 平成19年9月27日
 令和4年2月25日

(設置)

第1条 本学にボランティア・NPO活動センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、ボランティア・NPO活動を通じて、市民社会の担い手となる人材を育成し、地域や国際社会に貢献するとともに、本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を遂行するために、次の事業を行なう。

- (1) ボランティア・NPO活動を通じた人材育成及び教育支援に関する事項
- (2) 本学の教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事項
- (3) 本学の教育研究活動に相応するボランティア・NPO活動の環境整備に関する事項
- (4) その他、ボランティア・NPO活動センター委員会が必要と認めた事項

(役職者)

第4条 センターに、次の役職者を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 副センター長 1名

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

2 センター長は、専任の教育職員の中から、学長が指名する。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長が事故ある場合又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理又は代行する。

2 副センター長は、専任職員の中からセンター長が推薦し、学長が委嘱する。

(委員会)

第7条 センターは、第3条に規定する事業を運営するために、ボランティア・NPO活動センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター事務部長
- (4) センター長の推薦する専任職員 若干名

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(任期)

第8条 センター長、副センター長及び委員会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員会の招集)

第9条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

(事業報告)

第10条 センター長は、センターが実施した事業について、毎年、学長に報告書を提出しなければならない。

(事務)

第11条 センターの事務を処理するために、ボランティア・NPO活動センター事務局（以下、「センター事務局」という。）を置く。

2 センター事務局に、必要な事務職員を置く。

付 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則（平成15年5月15日第11条改正）

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

付 則（抄）（平成17年7月21日題名、第1条、第3条、第7条、第11条改正）

1 この規程は、平成17年7月21日から施行する。

付 則（平成19年9月27日第5条、第7条改正）

この規程は、平成19年10月1日から施行する。

付 則（令和4年2月25日第2条、第4条改正）

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

2024年度 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター名簿

センター委員

石原 凌河（センター長 政策学部准教授）
 川中 大輔（副センター長 社会学部准教授）
 殿内 恒（文学部教授）
 松畑 尚子（法学部准教授）
 宮浦 富保（先端理工学部教授）
 工藤 保則（社会学部教授）
 斎藤 文彦（国際学部教授）
 打本 弘祐（農学部准教授）
 羽溪 了（短期大学部教授）
 原田 正誓（REC事務局（京都）課長）
 辻 篤雄（学生部（瀬田）課長）

センタースタッフ

室矢 直人（センター事務部部长）
 田畑 満（センター事務局課長）
 竹田 純子（コーディネーター）
 ヒギンズ 尚美（コーディネーター）
 國實 紗登美（コーディネーター）
 吉田 裕貴（コーディネーター）

学生スタッフ（2024年度 計145名）

文学部 17名
 経済学部 17名
 経営学部 4名
 法学部 14名
 先端理工学部 9名
 社会学部 45名
 政策学部 12名
 国際学部 9名
 農学部 11名
 心理学部 7名

発行日 2026年1月

発行・編集 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

■ 深草キャンパス

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL 075-645-2047 FAX 075-645-2064

- ・京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩約3分
- ・JR奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
- ・京都市営地下鉄「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分

■ 瀬田キャンパス

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL 077-544-7252 FAX 077-544-7261

- ・JR琵琶湖線「瀬田」駅下車、帝産バス約8分

URL <https://www.ryukoku.ac.jp/npo/>

E-MAIL ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp